

世の中がどんどんおかしくなっていく中、また新しい年を迎えた。

戦後の第一次ベビーブームの中で生まれた私は同期の連中と「競争社会」を生きて来た。幸い「戦争」をいままで経験することはなかったが、内田樹氏の言う「戦争間期」をいま生きている気がする。

世界も日本もあまりにも悲惨な道にいま向かっている。愚かで情けないことはだれでもわかっている。

我々は、日々無力を感じながら「諦観力」を支えにしないと暮らせない日常を送っている。

どうしてだろうか。

幸いエディットはいつものところ時代の動向にあまり振り回されることなく、なんとか生き延びてきた。

昨年は東京オフィスの引っ越し、恒例の社員旅行、名古屋本社の事務所増設など、ある意味で「拡大」「冒険」にも挑戦してきた。

業界はますます厳しく、好転する兆しは見当たらぬ。いまの時代や業界の中で生き延びていくためには、身近な課題を大事にし、しなやかでしたたかな姿勢を維持しながら、培ってきた能力を常に磨き続け、新しいデジタルAI武器にも挑戦し、版元さんやクライアントさんの期待にきちんと応えられる「受注編集業」としての稼業を必死で遂行していくことだと思っている。

私個人にとっては、今年はまさに「バトンタッチ」の最後の年だ。

あつたまろおさむるいんがたあ

小林哲夫

エディットの34年間のノウハウと80人を超える陣容を維持しながら、この間、日々「継承」を意識して、私なりの思いや考えを社員やみんなに伝えてきた。そうした活動も最後の年になりそうだ。

もう一つの活動のAJEC(日本編集制作協会)の代表理事の任務も、今年で6年、任期満了となる。こちらもまさにバトンタッチの年だ。

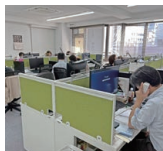
会社と協会のバトンタッチ、両方とも今年は「仕上げ」の年。果たして、どのような「仕上げ」になるのか、まだ見当がつかない。

昨年、同じ三河生まれの「縁」もあって、大河ドラマ「どうする家康」を欠かさず見続けた。家康に教えられた精神・忍耐力・手法・生きざまを胸に秘めて、今年も新しい「どうする小林」に取り組んでいこうと思う。

(追伸)

昨年の旅行の報告です。

海外は5月/フィリピンのボホール島と11月/韓国のインチョン・ソウルの旅、国内は4月/札幌の3泊4日、8月/若狭の海水浴、6月・7月・10月/私の第二のふるさと・金沢へは地方の編集会社の集まりや大学の同窓会を兼ねて3回も訪れました。白鳥路の彫刻の小径、主計町茶屋街、鈴木大拙館から県立美術館に抜ける緑の小径・歴史の小径・美術の小径の散策はいつも心とみずみず。9月/2泊3日の社員旅行・道東の旅、天気にも恵まれ、雄大な景色を楽しむことができました。



エディットの新しい東京オフィス



2泊3日の社員旅行は北海道・道東の旅



ウミガメと泳いだフィリピン・ボホール島



ジャージャー麺が忘れられない韓国・インチョンの中華街



企画・執筆・編集・制作
株式会社 **エディット**

代表取締役 **小林哲夫**

<https://www.edit-jp.com>

名古屋本社 〒451-0046 名古屋市西区牛島町5-2 名駅Tビル6階
TEL:052-586-0631(代) FAX:052-586-0632

東京オフィス 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町3-2 飯田橋スクエア6階A号
TEL:03-5225-0981(代) FAX:03-3266-5072

大阪オフィス 〒541-0041 大阪府中央区北浜3-5-19 淀屋橋ホワイトビル612号
TEL:06-6208-0501(代) FAX:06-6208-0502